

琉球の茶文化について



茶碗と茶托（『琉球全図』より）



首里城二階殿地区出土の天目・茶入

2024.

12.14[±]

入場無料

14:00~16:00
(開場 13:30)

講師 森 達也 氏

(沖縄県立芸術大学 副学長 / 教授)

会場 沖縄県立博物館・美術館
3階 講堂

受付 当日先着 (定員 200名)

お問合せ 098-941-8200

〒900-0006

沖縄県那覇市おもろまち 3-1-1

琉球王国では、古琉球時代の14世紀頃に日本から禅宗寺院の茶文化が伝播し、首里城をはじめとするグスクで数多くの天目茶碗や茶入（中国福建産）が出土しています。そして古琉球時代末期から近世初期には日本の茶の湯（茶道）が伝播して、士族の必須の教養となり、首里城では中国皇帝が派遣した冊封使をもてなす場で披露されました。一方、明清時代の中国の茶文化も伝わっており、日本の煎茶と似た喫茶方法も盛んとなりました。本講演では、こうした琉球王国時代の茶文化の歴史について概説します。

※駐車場の混雑が予想されますので、公共交通機関のご利用をお願いいたします。
※席数に限りがありますので、ご入場いただけない場合があります。予めご了承ください。
※会場内は空調の影響で寒くなる場合があります。



【講師】森 達也 (もり たつや) 沖縄県立芸術大学 副学長 / 教授

東京・日野市教育委員会学芸員、愛知県陶磁美術館学芸員・学芸課長を経て現職。専門はアジア考古学、陶磁考古学、海事考古学、陶磁史。著書に『中国青瓷の研究—編年と流通—』（汲古書院、2015年）などがある。

あなたの沖縄に出会う